



CORPORATE PROFILE / SUSTAINABILITY REPORT 2020

マツダ会社案内・マツダサステナビリティレポート【ダイジェスト版】2020



MAZDA MOTOR CORPORATION
ESTD. 1920 HIROSHIMA, JAPAN



CORPORATE VISION

私たちはクルマをこよなく愛しています。

人々と共に、クルマを通じて豊かな人生を過ごしていきたい。

未来においても地球や社会とクルマが共存している姿を思い描き、
どんな困難にも独創的な発想で挑戦し続けています。

- 1.カーライフを通じて人生の輝きを人々に提供します。
- 2.地球や社会と永続的に共存するクルマをより多くの人々に提供します。
- 3.挑戦することを真剣に楽しみ、独創的な“道”^{どう}を極め続けます。



CONTENTS

02	コーポレートビジョン	16	CSR(企業の社会的責任)取り組み	24	主要商品
04	トップメッセージ	16	マツダのCSR	24	新世代商品
06	新型コロナウイルス感染症の対応について	18	お客さま満足	25	主要商品ラインアップ
07	特集	19	品質	26	事業概要
07	特集 創立100周年を迎えて	20	安全	26	グローバルネットワーク
08	特集 技術開発長期ビジョン	21	環境	28	2019年度ハイライト
12	特集 マツダ初の量産電気自動車 MAZDA MX-30	22	人間尊重	29	会社概要
		23	社会貢献	30	マツダの歴史

編集方針

マツダ会社案内とマツダサステナビリティレポート、それぞれの読者のニーズを満たすことを目指して、マツダの概要や基本となる考え方に加え2019年度の特徴的な取り組みを紹介しています。

「マツダサステナビリティレポート2020【詳細版】」(142ページ)は別途ウェブサイトに掲載しています。

対象期間

2019年4月から2020年3月を中心に報告(一部、2020年4月以降の活動も報告しています)。



人々に人生の輝きを提供し
地球・社会との共存に挑戦し続けます

企業として発展し続けるために「マツダの独自性」を大切にします

自動車業界は今、100年に一度の変革期の中にあります。CASE（コネクティビティ技術／自動運転技術／シェアード・サービス／電動化技術といった新技術の総称）に代表される時代の要請に応じていくために、クルマの企画、開発、製造、販売、サービスなど多くの領域で変革が求められています。この変革期を乗り越え、マツダが企業として発展し続けるために大切にしなければならないものは「マツダの独自性」であり、その独自性をマツダと関わるすべての人々と共に創ることだと考えています。

中期経営計画で定めた3つの重点領域への取り組みを進めます

「人と共に創る独自性」の考えに基づいて、次の100年に向けた最初のステージとして、取り組むべき3つの重点領域「1. 独自の商品・技術・顧客体験への投資」「2. ブランド価値を低下させる支出の抑制」「3. 遅れている領域への投資」を定めた中期経営計画を2019年11月に公表しました。2019年度はCASEに対応した新技術の商品化など、各領域での取り組みを着実に進捗させました。

重点領域の取り組み状況(2020年10月時点)

1. 独自の商品・技術・顧客体験への投資	2. ブランド価値を低下させる支出の抑制
<ul style="list-style-type: none"> ■ CASEに対応した新技術の商品化 <ul style="list-style-type: none"> ・環境対応技術 <ul style="list-style-type: none"> - 独自開発のバッテリーEVシステム - 新世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」 - マイルドハイブリッドシステム「M ハイブリッド」 ・コネクティッド技術・サービス <ul style="list-style-type: none"> - 日本・米国・欧州でサービス開始 ・自動運転技術に繋がる先進安全技術 ■ 新世代商品 第一弾 MAZDA3、第二弾 CX-30、第三弾 MX-30 ■ 販売ネットワーク強化のための投資継続・強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 販売費用の抑制による販売の質的改善 ■ 品質改善による販売費用改善
	3. 遅れている領域への投資*
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会課題解決への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・広島県三次市での乗り合いサービスの実証実験(2018年12月～) ■ 次世代バイオディーゼル燃料のバリューチェーン構築(2020年8月～) ■ 「ひろしま自動車産学官連携推進会議」による産学官連携継続・強化

* インフラ、仲間づくり、環境・安全（人・地域社会、SDGsおよびCSR関連）への投資

2020年度は、マツダ初の量産電気自動車であるMX-30のEVモデルを欧州で9月から発売しました。日本国内では、MX-30のマイルドハイブリッドモデルを10月から発売、EVモデルを2021年1月から発売予定です。

コロナ禍の経験を礎に、より危機耐性を高めたビジネス構造へ変革します

2020年3月以降、経営に甚大な影響を与えているコロナ禍において、これを敢えて機会と捉え、過去を振り返り、現状を分析し、将来を見渡すことで、多くの反省や学びを得ました。働き方改革の加速、業務の見直しと効率化、固定費の効率化の加速、在庫量・生産の適正化、投資効率と投資方法の見直しなどに着手しました。

今回のコロナ禍の厳しい経験を礎に、中期経営計画の見直しを行い、より危機耐性を高めたビジネス構造への変革を目指してまいります。

厳しい環境下においても、ステークホルダーの皆さまに向けての取り組みを進めます

マツダは、コロナ禍の厳しい環境下においても、社会課題解決への貢献を目指し、ステークホルダーの皆さまへ向けた取り組みを積極的に推進しています。

従業員、従業員の家族、そして地域の皆さまの安全と健康を守ることを最優先に感染防止対策に取り組んでいます。時差出勤や在宅勤務などにより密を回避して安全と健康を確保すると共に、社内に感染症対応ポータルサイトを開設し感染症に関する情報展開を実施しています。また、日々、最前線で奮闘されている行政・医療関係・地域の皆さまに対して、クルマづくりをしている私たちとしてできる限りの支援活動を進めています。さらに、共存共栄の精神に則り、コロナ禍の影響を受けているお取引先さまへの支援を行っています。

コロナ禍関連の他に、地域社会への貢献として、自然災害被災地支援などにも継続して取り組んでいます。「令和2年7月豪雨災害」において、義援金に加え、復旧活動の支援のため、マツダ純正用品の「車中泊セット」、手袋、マスク、土のう袋といった物資や車両の提供を行いました。

SDGsの達成に貢献できるよう、CSR取り組みを進めます

マツダは、自動車会社として特に取り組むべき課題である気候変動や交通事故などの解決に向けて、環境や安全への投資を強化していきます。加えて、マツダが持つ技術などを活用し、人々の豊かな暮らしに貢献できる活動も併せて進めていきます。

環境領域では、化石燃料に代わるカーボンニュートラルなバイオ燃料の普及拡大を目指した次世代バイオディーゼル燃料のバリューチェーン構築や、電気自動車の駆動用バッテリーのリユース技術を活用したバーチャルパワープラント実証試験への取り組みを行政や参画企業と共同で開始するなど、Well-to-WheelでのCO₂削減の観点と、クルマの原材料調達から廃棄までの環境影響を考慮するライフサイクルアセスメントの観点から、環境負荷低減に取り組んでいます。

安全領域では、ペダル踏み間違いによる事故の防止のために、日本国内で「ペダル踏み間違い加速抑制装置」を発売するなど、「事故のない安全なクルマ社会」の実現を目指した取り組みを進めています。また、マツダの安全思想である「MAZDA PROACTIVE SAFETY (マツダ・プロアクティブ・セーフティ)」にもとづいた安心安全技術の進化に努めています。米国Insurance Institute for Highway Safety (道路安全保険協会)による衝突時の乗員保護や衝突回避性能などを評価する安全性評価試験において、米国で2020年モデルとして販売されている主要車種で最高総合評価を獲得するなど、安全性能に対して社外から高い評価をいただいています。

人々が安心して健康的な生活ができる社会の実現に向けて、人に関する領域では、コロナ禍での支援活動として、日本国内で新型コロナウイルス感染症軽症患者向け搬送車両を地方自治体へ提供、米国で医療従事者向けに車両の消毒とオイル交換を無料で行うエッセンシャル・カー・ケアプログラムを実施するなど、人に関わる取り組みを積極的に進めています。

このような事業活動を通じた社会課題の解決への取り組みとSDGsの達成への貢献を分かりやすくするため、中期経営計画とSDGsの目標との関連性を明確化してまいります。

外部環境が大きく変化する中でも、マツダブランドのありたい姿の実現に向けて挑戦と努力を続け、企業価値の向上を目指すと共に、SDGsの達成に貢献できるようCSR取り組みを進めます。

次の100年に向けて

マツダは、2020年1月30日に創立100周年を迎えました。

これもひとえに、お客さまをはじめ、販売会社さま、お取引先さま、ビジネスパートナーさま、地域の皆さまなど、ステークホルダーの皆さまのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。次の100年に向け、私たちは人を第一に考えた「人と共に創る独自性」を大切にしていきます。関係するすべての皆さまとの共創を進めて、お客さまに愛着を持っていただける独自性あふれる商品・技術・顧客体験の創造に挑戦し続け、成長を果たしてまいります。

2020年10月

マツダ株式会社
代表取締役社長兼CEO (最高経営責任者)

丸本 明

新型コロナウイルス感染症の対応について※1

新型コロナウイルスにより、お亡くなりになられた方にお悔やみ申し上げますとともに、体調を崩されている皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染の影響を受けて、日々、最前線で尽力されている政府・自治体・医療関係・地域の皆さま、ならびに感染防止のためにご自宅でお過ごしの方々に対して、クルマづくりをしている私たちとして、支援できる活動を一丸となって進めています。

活動に取り組んでいくにあたり、皆さまの声に真摯に耳を傾け、当社グループとして貢献できることにご協力してまいります。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う支援活動（2020年10月時点）

【国内の主な事例】

《医療現場への支援・医療用品の提供》

■ フェイスシールドフレームの供給

広島県、株式会社ジェイ・エム・エス、株式会社石井表記と連携し、医療現場で活用可能なフェイスシールドフレームを供給。長時間負担なく着用いただけるよう自動車のバンパーに使用するポリプロピレン(PP材)を使用し、耐久性とフィット感を実現

■ 新型コロナウイルス感染症軽症患者向け搬送車両の開発

行政や医療機関からの要望をもとにマツダが開発し、株式会社マツダE&Tが架装した新型コロナウイルス感染症軽症患者等向け搬送車両MAZDA CX-8を広島県・山口県に提供

■ 「知的財産に関する新型コロナウイルス感染症対策支援宣言」に参画

《地域への支援》

■ 当社従業員による提供…雨合羽・レインコート※2、ウエス加工用布類※3

■ 備蓄品の提供…マスク※4

■ ビジネスパートナーへの支援

《すべての皆さまへのご提案》

■ マツダ車のペーパークラフト、塗り絵を提供※5

【海外の主な事例】

《米国》

■ エッセンシャル・カー・ケアの実施

4月16日から6月1日まで、現地販売店と協力し、マツダ車だけでなく他メーカーのモデルも対象とした、全米の医療従事者向けに車両の消毒とオイル交換を無料で行うプログラムを実施

■ マツダヒーローズ・プログラムの実施

地域社会のために献身的な貢献をされている方のストーリーを募集し、優れた活動をされている方50名にMX-5(日本名:ロードスター)100周年特別記念車を贈呈※6

《欧州》

■ 国ごとに状況に合わせて各国で販売会社と販売店が一丸となって活動例) オランダ: マツダモーターネーデルランドが、公共交通機関で通っている医療従事者の送迎活動プログラムに参加

《南アフリカ》

■ 医療従事者への感謝の気持ちを込めた支援活動を実施

ロックダウン期間中、国内で医療関係に従事しているマツダ車保有者に対し、無料自動車点検サービスを実施

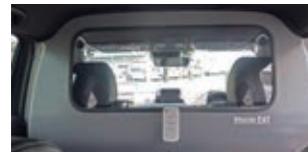
フェイスシールドフレームの供給



新型コロナウイルス感染症軽症患者等向け搬送車両MAZDA CX-8



前席と後席(2列)の間に設置した隔壁(パーティション)



米国: エッセンシャル・カー・ケア



オランダ: ヘルスケアヒーローたちのクルマ



南アフリカ: 医療従事者支援プログラム広告



※1 最新情報は次のURL参照: <https://www.mazda.com/ja/covid-19/>

※2 2020年4~5月に計745着提供(広島県 306着、広島市 379着、防府市 60着)

※3 2020年6月に約220kg(ウエス2,640枚相当)、広島市社会福祉協議会に提供

※4 2020年4月に計30,000枚提供(広島県10,000枚、広島市10,000枚、山口県5,000枚、防府市5,000枚)

※5 次のURL参照: <https://www.mazda.com/ja/csr/social/kids/papercraft/>

※6 2020年12月結果発表予定

特集 創立100周年を迎えて～すべての皆さまに、心より感謝をお伝えいたします～

マツダは2020年1月30日に創立100周年を迎えました。

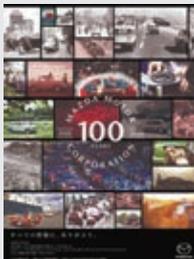
長きにわたり当社を支えていただいたお客さまをはじめ、販売会社さま、お取引先さま、ビジネスパートナーさま、地域の皆さまのおかげであり、関係するすべての皆さまに心より感謝いたします。

次の100年に向け、私たちは、人を第一に考えた「人と共に創る独自性」を大切にまいります。関係するすべての皆さまとの協業や共創を強化しながら、お客さまに愛着を持っていただける独自性あふれる商品・技術・顧客体験の創造に、今後も挑戦し続けてまいります。

支えてくださった皆さまへ感謝の気持ちをお伝えするさまざまな取り組み

100周年記念サイトの開設

2019年12月18日、創立100周年に向け、「マツダ100周年サイト」を開設しました。本サイトを通じ、関係するすべての皆さまと共に歩んできた100年をさまざまな角度から紹介し、心からの感謝の気持ちを伝えると共に、参加型のコンテンツにより、皆さまとの絆をより深めていきたいと考えています。例えば、ウィズ・マツダ・ストーリーズ (with Mazda Stories) では、マツダを支えてくださった皆さまからマツダとの物語を写真とともに投稿いただき、紹介しています。



写真でつづる100周年の感謝

創立100周年当日の、1月30日、新聞に広告を掲載しました。これまで支えていただいたすべての皆さまに感謝の意を伝えると共に、新たな100年に踏み出すマツダへの期待感を感じていただきたいという想いを込めて制作しました。掲載にあたり、マツダの100年は、支えてくださった方々一人ひとりの歴史でもあることから、クルマと共にある風景などさまざまな写真をコラージュしたデザインにしました。

100周年特別記念車

これまでマツダを支えてくださった皆さまへの感謝とともに、クルマづくりの原点を忘れないという想いを込めて、100周年特別記念車を発表しました。1960年に発売したマツダ初の乗用車「R360クーペ」は“多くの人が自ら運転し、行きたいところに出かけられる、そんな生活を豊かにするマイカーをつくる”という強い志のもと挑戦したクルマです。その想いをこれからも受け継いでいくことを誓い、R360クーペをモチーフにデザインしました。



マツダオフィシャルグッズ「MAZDA COLLECTION」

100周年を記念し、お客さまが生活のさまざまなシーンでマツダの世界観を楽しんでいただくことができるオフィシャルグッズ「MAZDA COLLECTION」を発売しました。マツダを支えてくださったすべての皆さまへの感謝の気持ちを伝えたいという想いから制作しました。

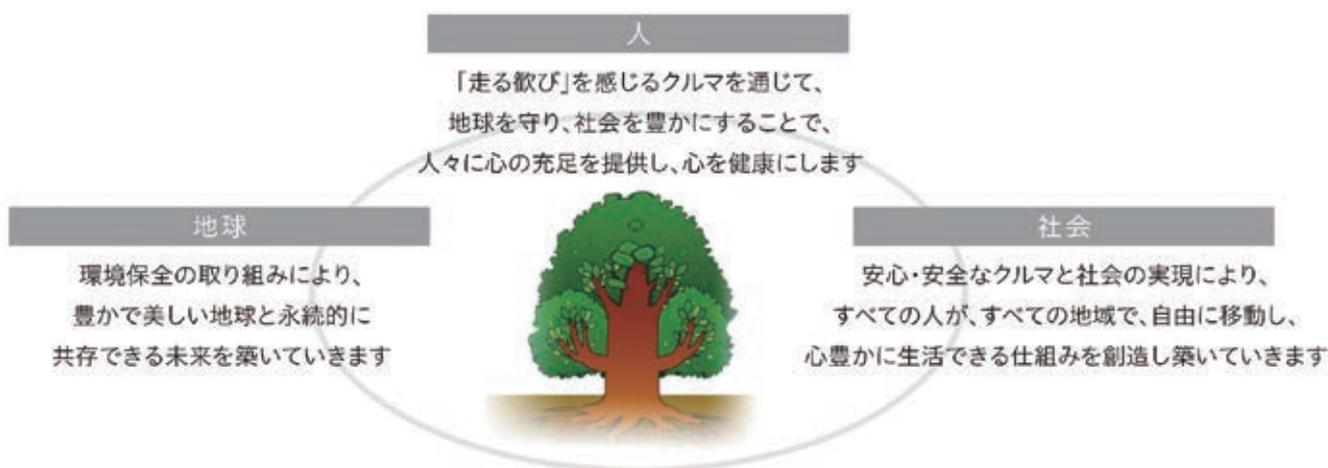
特集 技術開発長期ビジョン

マツダは、2007年に発表した技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」に基づき、「走る喜び」と「優れた環境・安全性能」の両立に取り組んできました。

2017年8月に、2030年を見据えた技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030」を公表しました。世界の自動車産業を取り巻く環境の大きな変化を踏まえ、より長期的な視野に立ち、クルマの持つ魅力である「走る喜び」によって、「地球」「社会」「人」それぞれの課題解決を目指していきます。

サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030

私たちマツダは、美しい地球と心豊かな人・社会の実現を使命と捉え、クルマの持つ価値により、人の心を元気にすることを追究し続けます。



地球

環境保全の取り組みにより、豊かで美しい地球と永続的に共存できる未来を築いていきます

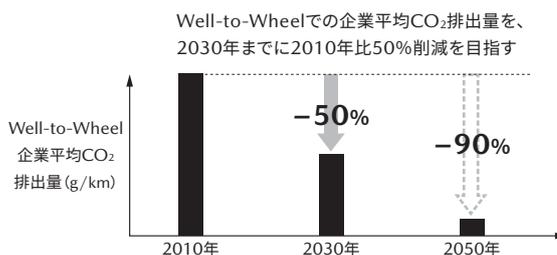
地球温暖化の抑制に向けたCO₂排出量の削減が最大の課題と認識しています。地球温暖化に歯止めをかけ美しい地球を残すために、クルマのライフサイクル全体でのCO₂排出量削減に取り組めます。これまでの車両走行段階だけではなく、エネルギーの採掘、製造、輸送段階のCO₂排出評価も組み入れたWell-to-Wheel視点でのCO₂排出量の削減を進めていきます。具体的な目標として、Well-to-Wheel視点での企業平均CO₂排出量を、2010年比で2050年までに90%削減することを視野に、2030年までに50%削減を目指します。

このアプローチと目標は、温室効果ガス排出削減等のための国際的な枠組みである「パリ協定」や経済産業省が推進する「自動車新時代戦略会議」ともしっかり足並みを揃えています。

Well-to-Wheel視点でのCO₂排出量削減



目標



この実現に向けて、各地域における自動車のパワーソースの適性やエネルギー事情、電力の発電構成などを踏まえた、適材適所の対応が可能となるマルチソリューションをご提供できるよう開発を進めています。

将来においても大多数のクルマに搭載が予測される内燃機関を磨き上げながら、小型軽量な電動化技術を展開します。一方、クリーンな発電で電力をまかなえる地域や、大気汚染抑制のために自動車に関する規制のある地域に対しては、電気自動車 (EV) も最適なソリューションとして導入していきます。2030年には生産するすべての車両に電動化技術を搭載する予定で、その構成比は、電動化技術を搭載した内燃機関車が95%、EVは5%を想定しています。

また、エネルギー源そのものもカーボンニュートラルに近づけることができるよう、微細藻類から生成されるバイオ燃料など再生可能液体燃料の普及に向け、産学官連携・企業間連携などを加速していきます。

2030年時点におけるマツダの電動化技術搭載車両の構成比



マルチソリューションの選択肢の一つとしてEVを導入



マツダ初の量産EV「MAZDA MX-30」

実現策

地球を守るため、実用環境下での温室効果ガス削減の効果を最大化することを目指し以下に取り組んでいきます。

1. 内燃機関の徹底的な理想追求 (世界No.1)
2. 理想を追求した内燃機関に“効率的な電動化技術”を組み合わせる
3. クリーン発電地域、大気汚染抑制などの政策のある地域へ電気自動車 (EV) など電気駆動技術を展開

SKYACTIV-X

「SKYACTIV-X」は、ガソリンエンジンならではの伸びの良さに、ディーゼルエンジンの優れた燃費・トルク・レスポンスといった特長を融合した画期的な内燃機関です。マツダ独自の燃焼方式「SPCCI (Spark Controlled Compression Ignition: 火花点火制御圧縮着火)」を採用し、優れた環境性能と、出力・動力性能を妥協なく両立するとともに、マツダが目指す「人馬一体」の走りをサポートする、地球と人に寄り添うエンジンです。また、マイルドハイブリッドシステム「M HYBRID」の採用により、滑らかで気持ちの良い走り、効率的な燃料消費をサポートします。2019年から新世代商品である「MAZDA3」や「MAZDA CX-30」への搭載を開始しています。



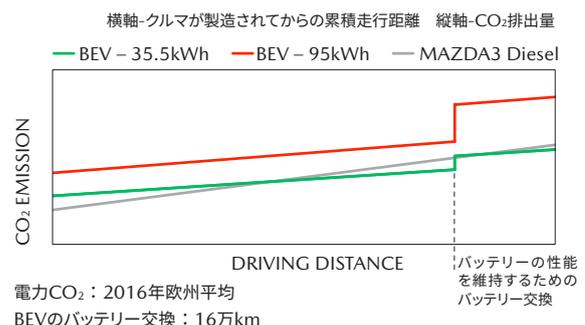
電気自動車 (EV) におけるライフサイクルアセスメント (LCA) 評価

マツダは、EVにおけるCO₂排出量について、クルマの原料調達・製造・使用・リサイクル・廃棄までの各段階における環境影響を算出し評価する手法 (LCA) を採用し、LCAの観点から適切な容量のバッテリーを搭載していくことで本質的な地球環境負荷低減に貢献したいと考えています。

一般的にEVの航続距離はバッテリー容量に比例して増えますが、同時にバッテリー製造時のCO₂排出量も増えます。マツダ初の量産EV「MAZDA MX-30」では、本質的なCO₂削減と、お客さまに安心してお使いいただける実用的な航続距離の確保を両立するために、35.5kWhのバッテリーを採用し、約200キロの一充電走行距離*を実現しています。

* 欧州WLTPモード。電気自動車は、走り方や使い方、使用環境等によって、走行 (航続) 可能距離が大きく異なります。

電気自動車と内燃機関搭載車のライフサイクルでのCO₂排出量 (学会発表/論文の評価条件を参考にマツダ試算)



社会

安心・安全なクルマと社会の実現により、すべての人が、すべての地域で、自由に移動し、心豊かに生活できる仕組みを創造し築いていきます

スマートフォンなどからの情報量増加による注意散漫な運転など先進国を中心とした新たな事故要因や、過疎地域における公共交通の弱体化や空白化など社会構造の変化に伴う課題が顕在化しています。これらの課題に対し、安心・安全なクルマと社会の実現により、すべての人が、すべての地域で、自由に移動し、心豊かに生活できる仕組みを創造し築いていきます。

「事故のない安全なクルマ社会」の実現に向け、「MAZDA PROACTIVE SAFETY (マツダ・プロアクティブ・セーフティ)」の思想に基づくさらなる安全技術の進化を追究します。

実現策

1. 基本安全技術の継続的進化と全車標準化

- ・ドライビングポジション
- ・ペダルレイアウト
- ・視界視認性
- ・アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

2. 人間の認知、判断をサポートする先進安全技術「i-ACTIVSENSE」の標準装備化

追突・歩行者・踏み間違い・車線変更時の事故を削減する技術

- ・2018年3月期：日本で標準装備化
- ・2018年以降：グローバルで標準装備化

自動運転技術を活用した人間中心の自動運転コンセプト「Mazda Co-Pilot Concept」

- ・2025年までに：標準装備化を目指す

3. コネクティビティ技術の活用

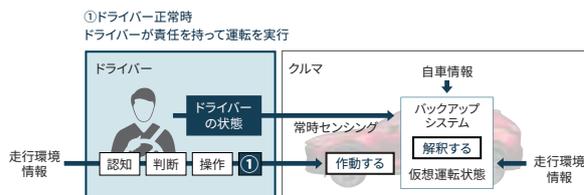
「マツダ コネクト」の進化版の活用により、クルマを使う人が公共交通が弱体化した過疎地での移動を支える役割を担えるようなビジネスモデルを創造

- ・2018年：広島県三次市で、将来の乗り合いサービスを見据えた移動サービス実証実験を開始

「Mazda Co-Pilot Concept」

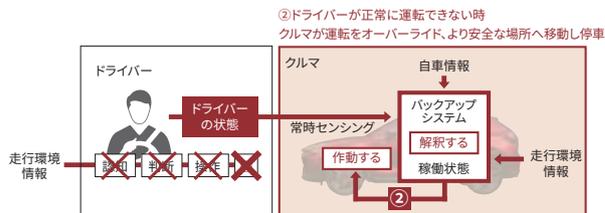
ドライバー正常時

ドライバーが運転することで「走る喜び」を提供。その裏でクルマはドライバーの状態を常時検知し仮想運転状態を保つ。



ドライバーが正常に運転できない時

ドライバーが正常に運転できない状態と判断した時には、クルマがオーバーライドして危険を回避し、より安全な場所へ移動し停車。



米国IIHS^{*1}安全性最高総合評価「2020 TSP+^{*2}」を全銘柄中最多の6モデル^{*3}で獲得

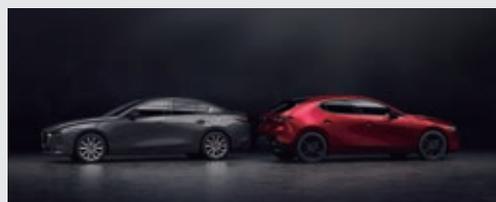
マツダは、米国IIHS (道路安全保険協会) による安全性評価試験において、米国で2020年モデルとして販売されている「MAZDA3」や「MAZDA CX-5」など6モデルで最高総合評価を獲得しました。

IIHSの安全性評価は、衝突時の乗員保護に関する試験項目に加え、予防安全技術である衝突被害軽減ブレーキや前方衝突警報装備による衝突回避性能、ヘッドライト性能について評価されます。IIHSの発表によると、2020年の試験対象モデルを製造した自動車メーカーにおいて、マツダは最も多くのモデルが最高総合評価「2020 TSP+」を獲得。これはマツダの対象車種が、高い衝突安全性能とともに各モデルすべてのグレードにおいて、歩行者検知機能を備えた衝突被害軽減ブレーキと先進的なヘッドライト装備による高いレベルの予防安全性能を評価されたことによるものです。

*1 米国保険業界の非営利団体Insurance Institute for Highway Safety

*2 Top Safety Pick+

*3 MAZDA3 HATCHBACK, MAZDA3 SEDAN, MAZDA6, CX-9, CX-5, CX-3が対象



「MAZDA3 (米国仕様車)」

人

「走る喜び」を感じるクルマを通じて、地球を守り、社会を豊かにすることで、人々に心の充足を提供し、心を健康にします

機械化や自動化によって恩恵を受ける一方で、日々体を動かさないことなどによるストレスが増大していると考えます。この課題に対し、多くのお客さまにクルマを運転する「走る喜び」を感じていただき、心豊かな人生を味わっていただくことを目指し、マツダの強みである、人の能力を引き出し、心と体を活性化させる「人馬一体」感のさらなる追究と、「クルマに命を与える」という哲学のもと、クルマのデザインを芸術の域まで高め、見る人すべての心を豊かにする「魂動デザイン」のさらなる深化に取り組みます。

新世代車両構造技術「SKYACTIV-VEHICLE ARCHITECTURE」

人間中心の設計思想をさらに突き詰め、人間の体が本来持っているバランス保持能力を最大限に活用することを目指しています。それにより、すべての乗員により快適で疲れにくく、環境変化にも即座に対応できる状態をもたらします。同時に運転操作に対して体のバランスをとりやすくなるため、意のままの走り、究極の「人馬一体」感をより高いレベルで提供することが可能となります。これらを実現するため、シート、ボディ、シャシー、NVH性能など各機能を見直し、クルマとして全体最適の視点で開発に取り組みました。

脊柱の柔軟性/可動性を保つため、骨盤を立て、脊柱の自然なS字カーブを維持するシート構造



「魂動デザイン」の深化

マツダは2010年より「魂動-SOUL of MOTION」というデザイン哲学のもと、生命感あふれるダイナミックなデザインのクルマを創造してきました。この「魂動デザイン」をさらに深化させ、日本の美意識を礎とした「新たなエレガンス」の表現を追求していきます。深化した魂動デザインでは、「引き算の美学」、すなわち省略することによって生まれる余白の豊潤さを大切に、要素を削ぎ落としたシンプルなフォルム、そして研ぎ澄まされた繊細な光の表現でクルマに命を吹き込むことに挑戦しています。



「マツダ VISION COUPE」

人々の心を魅了するマツダデザイン

「MAZDA3」が2020年「ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー」を受賞

2020年「ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー」(主催:ワールド・カー・アワード)において、「MAZDA3」が特別賞の一つである2020年「ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。「MAZDA3」のデザインは、「Car as Art (アートとしてのクルマ)」というマツダデザインの哲学を追求。日本の美意識に基づく「引き算の美学」でクルマのフォルムから不要な要素を削ぎ落とし、滑らかなボディの面を走る繊細な光の移ろいによって豊かな生命感を表現する、独自の造形を創り出しました。



「MAZDA3」

「MAZDA CX-30」と「MAZDA MX-30」が独「2020年レッド・ドット賞:プロダクトデザイン部門」を受賞

「MAZDA CX-30」と「MAZDA MX-30」が、世界で最も権威のあるデザイン賞の一つであるドイツの「2020年レッド・ドット賞:プロダクトデザイン部門」(主催:ノルトライン・ヴェストファーレン・デザインセンター)を受賞しました。

「MAZDA CX-30」は、世界で最も美しいクロスオーバーSUVを目指し、流麗で伸びやかな美しさと、SUVらしい大胆な力強さという2つの表情を併せ持つデザインとしました。ボディ曲面に周囲の光と陰を映し込みながら美しく変化する「移ろい」で、新しい生命感を表現しています。

「MAZDA MX-30」は、人の手が生み出す美しい造形とこだわりのつくり込みを基礎としながら、将来に向けた価値観の変化や、新しいライフスタイルに寄り添うことを目指し、「Human Modern」をコンセプトに、そのデザインをつくり上げました。



「MAZDA CX-30 (欧州仕様車)」



「MAZDA MX-30 (欧州仕様車)」

特集 マツダ初の量産電気自動車MAZDA MX-30

人を思い、創造的な時間と空間を提供するクルマ

お客さまの日々の暮らしや思いに寄り添い、
技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030」のもと、
「人」「地球」「社会」の課題に向き合いました。
自然体でありながら挑戦的なマツダの新たな顔が誕生しました。



商品本部 MAZDA MX-30主査

竹内 都美子

人

「自然体でわたらしく生きる」を具現化するために

MX-30の「自然体でわたらしく生きる」というキーワードは、4年前、MX-30の開発をスタートするにあたり、世界中のお客さまとお会いする中で生まれました。

お客さまにお会いして印象的だったのは、意外にも多くのお客さまのリビングにテレビがないことでした。非常にお忙しく過ごされる中で、頭の中をリセットする時間をつくろうと工夫されているようでした。「クルマの中は自分を取り戻す大切な時間であり空間なのだ」という声もお聞きました。今開発しようとしているクルマを発売する頃には、さらにそのニーズが大きくなっているはず。それならば、お客さまの心に寄り添った空間や時間をつくることを実現していこうと考えました。

このようにして見いだした「自然体でわたらしく生きる」を具現化するにあたり、まずお客さまがリラックスして過ごされるリビングを研究し、インテリアや家具を内装の参考にしました。シートの形状や素材、ドアトリムの素材、シフトやタッチパネルディスプレイが配置されるコンソールの高さや形状にも、心地よさや使いやすさなどの工夫を施しています。

新たな表現に挑戦した魂動デザイン「Human Modern」

今、AI^{※1}やIoT^{※2}の技術が暮らしに取り入れられていく中で、身の回りの製品デザインはシンプルなHigh-tech Modernへと進みがちですが、私たちはお客さまとの出会いの中から、自然体で人の温かみを感じる「Human Modern」を追求したいと思いました。それは表現の幅という平面的な^{ひろ}拡がりというより、新しい生き方に寄り添うという、人と時間軸を加えた新たな挑戦でした。フラットなドアやフロントからミラーにかけての統制のとれた流れなど、「引き算の美学」を追求するデザインの実現には、緻密に計算された高度な技術が生かされています。MX-30では、挑戦的ともいえる新しい表現で、「魂動デザイン」をより深化させることができたのではないかと思います。

フリースタイルドアの採用は、自身の愛車であるロードスターで体現してきたクルマでの開放感に始まります。また、日本家屋の縁側のように、室内と外がシームレスにつながりリラックスできる空間にしたいと考えました。

前後のドアを開ければ後席に荷物を置き、すぐに運転席に乗り込むことができるという実用性もあります。動線を少しでも短くすることは、時間に追われるお客さまの心を軽くする、もう一つの開放感につながると考えます。

※1 人工知能 (Artificial Intelligence)

※2 モノのインターネット (Internet of Things)。モノがインターネット経由で通信することを指す



電気自動車でも変わらない「人馬一体」を求めて

MX-30はマツダ初の量産電気自動車 (EV) ですが、まずより快適でリラックスできる走りを目指しました。

私自身、運転が大好きです、クルマに乗るとワクワクします。しかし、いつでも、ワクワクするとは限りません。運転席に座ってその日の忙しさを思い、疲れを感じる時は、気持ちが内向きになっています。

そこで一旦、心をととのえる空間となるのが先の内装を施した車内であり、最初に目に入るのが7インチタッチパネルディスプレイです。ディスプレイにはお客さまの動作、時間や気温によって毎日異なる映像が表示されます。自分が乗り込んだことをMX-30が受け止めたように変化する画面が、徐々に気持ちを外へと向けるお手伝いをします。

気持ちをより運転を楽しんでいただける状態にするお手伝いをした上で、マツダの「人馬一体」の走りを深化させるため、EVの特徴を利用しようと考えました。

マイルドハイブリッドモデルと比べ大きいバッテリーを積んでいるEVは、大きな重しを抱えて走っているようなもので、ハンドルを切っても後から車体がついてくるような感覚になりがちです。そこで走りの良さを実現するために、バッテリーを単なる重量物ではなく、これを覆うバッテリーケースを車体骨格の一部として利用し、ボディ剛性の強化に生かしました。さらに、車両運動制御技術「electric G-Vectoring Control Plus (エレクトリック G-ベクタリング コントロール プラス)(e-GVC Plus)」を搭載し、低速から高速、上り坂・下り坂などさまざまな運転シーンで滑らかで心地よい動きを提供します。

自然で心地よい動きの上に加えたものが、モーターが発揮するトルクの状態をドライバーが認知できるEVサウンドです。トルクの状態をドライバーが認知することで、より正確なスピードコントロールをサポートします。

地球

暮らしに溶け込んでいたサステイナブルな素材

あるお客さまが「とても使い勝手が良くて、まだ何年も使えそう」と祖母から受け継いだという一枚板のまな板を見せてくださいました。それはとてもナチュラルな言葉で、長く大切にものを使うことを楽しんでいる様子が伝わってきました。他のお客さまも同様に、普段から肩肘を張らずに環境や社会のためになることを思い、生活用品に自然素材を積極的に取り入れるなどそれぞれのスタイルで気持ちのいい空間をつくっていらっしゃいました。

それに対してクルマは、まさに鉄とプラスチックの塊です。従来の考えにとらわれず、サステイナブルを意識した自然由来の素材を取り入れていくことを検討しました。ただ、クルマは高温や紫外線、傷つきやすさなど家の中とは異なる厳しい環境があります。使用できる素材に限られている中で、素材開発の段階からサプライヤーさまと共に協議を重ね、ペットボトルからのリサイクル繊維やコルクを採用するに至りました。

特にコルクについては、吸湿性や制振性などの機能性に優れ、しかも軽量というメリットはあるものの、耐久性が一番の課題でした。そんな中、偶然テレビ番組でコルクの耐久性を高める技術が紹介され、これを知ったチームメンバーがサプライヤーさまと情報を共有し、一気にマツダの基準をクリアする品質を実現することができました。コルクはコルク樺の樹皮から作られますが、樹齢200～300年の間、多くのCO₂を吸収しながら再生される樹皮を収穫し続けることができるサステイナブルな素材です。さらにMX-30に使われているコルクは、ワイン栓などを製造した後の端材を活用しています。

実はマツダの創業はコルク製造業で、今回の開発にはその流れをくむサプライヤーさまにも参画していただきました。創立100周年を迎える中、私たち開発者にとっても心地よいサプライズな出会いがありました。



環境と普段の暮らしを見据えたバッテリー容量

クルマのバッテリー製造時には多くの電気を必要とする上、バッテリーが大容量になるほどブレーキサイズやタイヤが大きくなるなど、環境に対する負荷が大きくなります。マツダは、バッテリーなどの部品の原料調達、製造過程からクルマを廃棄するまでの全ての段階を通じてCO₂削減に貢献したいと考えています。このライフサイクルアセスメント(LCA)の観点からも、MX-30は開発の早い段階からバッテリーの適切な容量を見極め、大容量化はしないと決めていました。

MX-30のバッテリー容量は35.5kWh、一充電走行距離は約200キロ^{*1}になります。MX-30を選ぶお客さまが普段通勤や街中での買い物に使われるには、ちょうど良い大きさだと判断しました。さらに、夜間に自宅で充電できるというEVならではの利便性を有効に生かすためにも、必要以上に大きなものを積まず、必要以上の価格にならない方が、お客さまにとってのメリットが大きいのではないかと考えました。環境への配慮と普段使いの良さを、バランスよく実現できたのではないかと思います。

*1 欧州WLTPモード。電気自動車は、走り方や使い方、使用環境等によって、走行（航続）可能距離が大きく異なります。

安全と人への思いをさらに深めて

マツダは交通安全に関しても社会課題の一つと捉え、その技術力で社会に貢献したいと考えており、MX-30にも新たな先進技術が生かされています。

スマート・ブレーキ・サポート(SBS)には、交差点での右折時、直進してきた対向車との右直事故回避アシスト機能(右ハンドルの場合)を追加しました。さらに緊急時の車線維持支援として、従来の白線だけでなく、芝生や縁石なども感知し、道路での安全な走行のキープをサポートする「ロードキープアシスト機能」と、車線変更時に隣にクルマを感知した場合に、アラームに加え、ハンドルを戻す「側方危険回避アシスト機能」も搭載。いずれも事故の多いシーンを想定した技術開発を行い、搭載へと至っています。

このような安全面に加えて、多様なお客さまのニーズにこたえ、フリースタイルドアにも工夫を施しました。例えば、以前RX-8にフリースタイルドアを採用した際に、車椅子を使われるお客さまにお求めいただいた経験から、フロントドアの開度を他のマツダモデルよりも、拡大しています。これにより、障がい者用駐車場のスペースで車椅子を切り返すことなく、運転席に乗り込めるようになりました。



4年前にスタートしたMX-30の開発は、お客さまへのヒアリングという企画段階から、プランナーだけでなく、デザイナーや販売担当も参加するなど、より人と人とのつながりが強い現場でした。お互いの領域を刺激し合い、高めることができたチーム力により誕生したのがMX-30です。

クルマは単なる移動手段という役割を超えて、常にお客さまが求める機能や空間を備える居場所であることができればと思います。それは、家族やパートナーのように受け入れられる愛着の湧くクルマづくりを目指してきた私自身の思いにも通じるところです。

MX-30の開発を通じて、創立100周年を迎えたマツダの、次の100年に向けた第一歩となる挑戦をカタチにできたのではと思います。同時に、マツダのマルチソリューション戦略に向けての挑戦は、これからも続く私自身の挑戦でもあると、今また決意を新たにしています。

マツダのCSR

マツダのCSR

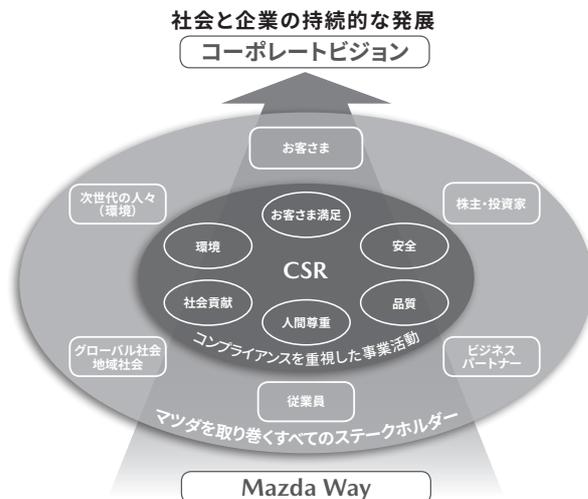


マネジメント



基本的な考え方

「Mazda Way」に基づいた従業員一人ひとりの行動を通して、「コーポレートビジョン」の実現を目指しています。従業員一人ひとりがマツダを取り巻くすべての人々（ステークホルダー）の要望や期待に応えるよう努力しながら、日々の事業活動を通じてCSR（企業の社会的責任）の取り組みを推進し、社会とマツダの持続的な発展を目指します。国際ルールや各国・各地域の法令順守のみならず、現地の歴史、文化、慣習などを尊重した取り組みができるよう、開発・生産・販売などの拠点、サプライヤーと連携し、CSR取り組み推進体制を構築しています。



SDGsを踏まえた取り組み推進

マツダは国連において採択されたSDGs*（持続可能な開発目標）の達成に貢献できるよう、さまざまな取り組みを進めています。2020年度は、中期経営計画に基づく取り組みと、SDGsとの関連性を明確化する検討を進めています。SDGsの目標達成に貢献できる取り組みを、マツダサステナビリティレポート【詳細版】(P26参照)の各項目で紹介しています。

*Sustainable Development Goalsの略。国連加盟国に対して、2015年～2030年に、貧困・飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社會などの分野で、持続可能な開発に取り組むことを求めるアジェンダとして、2015年9月に採択。17の目標と169のターゲットから成る。

SDGsの17の目標を示したロゴ



国際社会の取り組みへの参加

マツダは、持続可能な成長を実現するための世界的な取り組みである「国連グローバル・コンパクト」へ署名したほか、金融安定理事会(FSB)が設置した、「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」提言に賛同するなど、国際社会の取り組み(イニシアティブ)に則った取り組みを推進しています。



CSRについての社外評価(2020年8月31日現在)

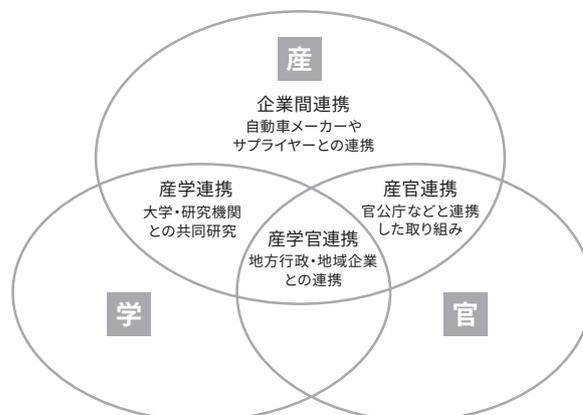
マツダは、重要な国内・海外の社外指標や社外評価を特定し、結果の分析を行うことで、自社の取り組みを評価しています。SRI(社会的責任投資)やESG(環境・社会・ガバナンス)の格付機関をはじめとした国内・海外の重要な調査などに対応し、評価をいただいています。



企業・大学・官公庁との連携

マツダは社外の新たな知見を得ながら効率的に事業課題を解決し、社会と企業の持続的な成長に向けて取り組むことを目的として、企業、大学、官公庁と連携を進めています。環境・安全に関わる規制強化、異業種参入、モビリティビジネスの多様化など、企業を取り巻く事業環境が厳しさを増す中、ひろしま自動車産学官連携推進会議（ひろ自連）などを通じて、独自の技術の開発や、イノベーションを生み出す人材育成などで地域に貢献しています。

ひろ自連:広島のものづくり産業発展への強い希望と情熱を出発点として、参加団体が自発的に集まり、あるべき姿を考え、産業発展につながるイノベーションのテコになることを目指す産学官連携推進団体。将来エネルギー研究や地場サプライヤーとの技術交流などさまざまな活動を実施。



サプライヤーと一体となったCSRの推進

マツダは、持続可能な社会づくりのためにサプライヤーと一体となったCSRの推進に取り組んでいます。サプライヤーとの取引にあたっては、品質、技術力、価格、納期、経営内容に加えて、コンプライアンス体制、環境保全への取り組みなどを評価基準に、総合的に判断しています。また、サプライヤーと共に品質向上・生産性改善の取り組みを進めています。海外での活動においては国民性や文化の違いを尊重し、現場の改善活動を継続的に推進しています。

取り組み詳細については以下URL参照
<https://www.mazda.com/ja/csr/management/distributor/>



メキシコでの活動報告風景

マツダのマネジメント体制

コーポレートガバナンス(企業統治)

マツダは、東京証券取引所が定めるコーポレートガバナンス・コードの趣旨を尊重し、株主をはじめお客さま、取引先、地域社会、従業員などのステークホルダーと良好な関係を構築しつつ、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うことにより、マツダの持続的成長および中長期的な企業価値の向上を目指し、コーポレートガバナンスの充実に継続的に取り組んでいます。

内部統制

マツダでは、従業員の行動指針を示す「マツダ企業倫理行動規範」や財務統制のガイドラインなどを定め、各部門が規程・要領・手順書などを整備しています。グループ会社との連携を通して、マツダグループ全体で最適な内部統制の構築を推進しています。

さまざまなリスクへの対応

基本ポリシーや関係する社内規程に従って、社内外のさまざまなリスクの把握と低減活動を継続し、事業の継続と安定的な発展の確保に努めています。災害・緊急事態への対応、情報セキュリティの確保、個人情報や知的財産の保護などさまざまなリスクを想定し、適切に管理しています。また、事業の中断が社会に甚大な影響をおよぼすことのないよう、事業継続計画(BCP)の拡充に取り組んでいます。

コンプライアンスの推進

コンプライアンスを単なる法令順守にとどまらず、社内の規則や社会の期待・要請などにもかなったものと位置付け、「マツダ企業倫理行動規範」にのっとり、誠実で公正な事業活動への取り組みを進めています。

お客さま満足

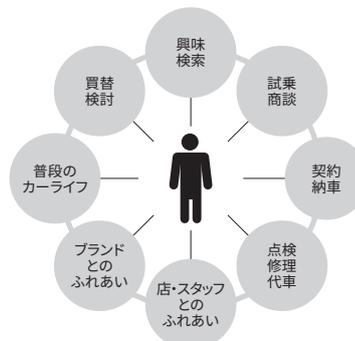
お客さまへの取り組み



基本的な考え方

マツダグループは、ブランドの価値向上を通じて、強く支持してくれるファンを増やし、その積み重ねによりビジネスを成長させ、企業価値を高めるという考え方「ブランド価値経営」を推進しています。お客さまと特別な絆を築くことを目指し、お客さまとの全ての接点、つまりお客さまがマツダ車を保有している間だけでなく、購入前、さらにクルマを手放した後といった、「カーライフ全体」でマツダブランド体験を提供する施策を推進しています。

全ての接点



お客さまに「走る喜び」を体感いただく活動の促進

お客さまにカーライフを通してマツダブランドとのコミュニケーションの機会を持っていただき、マツダとの絆を深めていただくことを目的とした活動を推進しています。活動の一環で実施しているイベントにおいては、マツダのモノづくりの考え方や最新技術の紹介、「走る喜び」の提供と、安全・環境の啓発、従業員との対話の機会を設けるなどの工夫を凝らし、お客さまとの特別な絆づくりを進めています。



「マツダファンフェスタ 2019 in OKAYAMA」
(主催：岡山国際サーキット／主管：(株)ピーススポーツ)
国内最大級のマツダファンイベント。お客さまとの絆を深めることを目的として、マツダのエンジニアによる「人馬一体講座・試乗」、「モノ造り体験」などの体感型イベントを実施。2019年度は6,549名参加。

お客さまのカーライフを確実にサポート

「お客さまの安全・安心・快適な保有体験」「お客さまに選ばれ続けるサービス」の実現を目指し活動を推進しています。高度な知識／整備技術、誠心誠意のカーライフアドバイスをお客さまにお届けするため、サービストレーナー／スタッフの研修トレーニングを行っています。また、技術力・意欲向上を目的として整備技術・お客さま対応力を競う「サービス技術大会」を行っています。



整備技術力を競う「第5回サービス技術世界大会」(2019年5月開催)

TOPICS マツダオフィシャルグッズによるお客さまとの絆づくり

お客さまと共に歩ませていただいた100年。これまでマツダを支えてくださった全ての方に感謝の気持ちをお伝えしたい。そんな想いのもと、『歴史(HERITAGE)』と『未来(VISION)』をテーマにマツダオフィシャルグッズがデビューしました。Tシャツやマグカップなど、日常でもマツダを感じていただける使いやすいアイテムを中心としたコレクションや過去・現在・未来のマツダ車を厳選したモデルカーのコレクションをご用意し、お客さまとマツダのストーリーを世代を超えてお楽しみいただけるアイテムとなっています。



「100周年コレクション」の一部



基本的な考え方

品質向上に向けての取り組み

カーライフを通じてお客さまに「安心」「信頼」「感動」をお届けするため、「企画から製造まで一貫通貫した品質のつくり込み」「市場問題の早期把握・早期解決」「お客さまとの特別な絆の構築」にマツダグループ全体で取り組んでいます。

～「100-1=0」の考え方に基づく“クルマづくり”～

■企画から製造まで一貫通貫した品質のつくり込み

「クルマ100台のうち、お客さまにとってその1台は100分の1台ではなく、唯一無二の1台であり、全てのお客さまに良い品質をお届けする」という強い思いが「100-1=0」という言葉には込められています。マツダでは“お客さまの1台1台を大切に作るクルマづくり”を追求し、関連部門が一体となり企画から製造まで一貫通貫で徹底して品質をつくり込んでいます。

～「100-1=0」を「100+1」に変えていくプロセスへの取り組み～

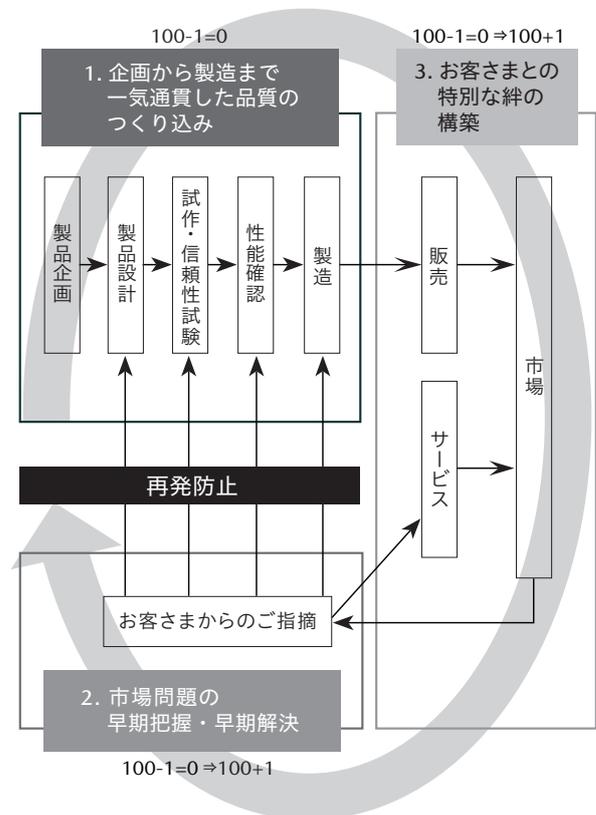
■市場問題の早期把握・早期解決

市場で予測できなかった問題が発生した場合、お客さまからの信頼を失うことになってしまいます（「100-1=0」）。そのため、お客さまのご指摘の早期把握と早期解決を目指した品質保証活動を推し進めています。

■お客さまとの特別な絆の構築

平日頃からお客さまと誠実に向き合い、寄り添う気持ちでコミュニケーションをとっていくことで、お客さまとの間に、いつまでも信頼し続けていただけるような特別な絆を築いていくことを目指しています（「100-1」⇒「100+1」）。

品質保証の考え方



TOPICS 従業員を対象としたマツダブランドへの理解を深める取り組み

従業員自身がステークホルダーにマツダの商品やモノづくりの考え方を自分の言葉でお伝えできるように、商品に直接触れてマツダブランドへの理解を深める研鑽活動を行っています。最新モデルの試乗体験を通じて、商品の特性のみならず、開発者の想いや哲学に至るまで理解を深める活動や、歴代のマツダ車のレストアを通じて、モノづくりに対する先人のこだわりや考え方を理解する活動を行っています。



レストア活動

安全

安全への取り組み



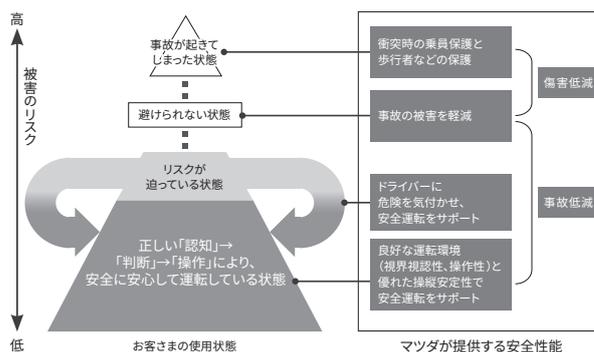
基本的な考え方

マツダは、全てのお客さまに優れた安全性能を提供することを目指し、安全技術の先進性に磨きをかけ続けるとともに、世の中に普及してこそ価値を発揮するという考えのもと、技術開発を推進しています。

Mazda Proactive Safety(マツダ・プロアクティブ・セーフティ)：マツダが目指す安全性能の考え方

マツダは、ドライバー・人間を理解・信頼・尊重することを重視し、以下の考えで安全技術の研究・開発を行っています。安全に運転するためには、認知・判断・操作の各ステップで適切に行動することが重要です。運転する環境が変化しても、正しく認知・判断することをサポートし、安全に安心して運転していただきたいと考えています。しかし、人間は時として避けられないミスを起こします。万が一のドライバーのミスにも対応できるように、事故被害を防止・軽減することをサポートする技術を開発・提供していきます。

技術開発における安全への取り組みについては、「特集 技術開発長期ビジョン(P8-11参照)」においても紹介しています。



安全技術の継続進化

マツダは、ドライビングポジション、ペダルレイアウト、視界視認性などの基本安全技術や、軽量・高剛性・安全ボディなど事故発生時の傷害を軽減する技術の継続的進化を進めています。加えて、より安心・安全なクルマをお届けするため、先進安全技術「i-ACTIVSENSE(アイ・アクティブセンス)」の搭載を進め、安全運転をサポートする認知支援技術や、事故が避けられない状況での衝突回避・被害軽減を図る技術を継続進化させています。

また、現在開発を進めている人間を中心に考えるマツダ独自の自動運転技術開発コンセプト「Mazda Co-Pilot Concept(マツダ・コ・パイロット・コンセプト)」を2025年までに標準装備化することを目指します。

運転に集中できるよう設計されたヒューマン・マシン・インターフェース*

*ドライバーとクルマの間で運転中に発生するさまざまな情報を適切にやりとりするための装置や仕組み



TOPICS 後付けの「ペダル踏み間違い加速抑制装置*」を発売

マツダは、2020年7月に、既販車のデミオ、ベリーサを対象に、後付けの「ペダル踏み間違い加速抑制装置」を、全国のマツダ販売店を通じて発売しました。

後付けの「ペダル踏み間違い加速抑制装置」の導入により、現在販売中の車種だけではなく、「デミオ」「ベリーサ」を長くお乗りいただいているお客さまにも、より安心して運転を楽しんでいただけるようになりました。

詳細については以下URL参照
<https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2020/202007/200706a.html>

* 本装置は、加速の抑制を目的としており、自動で停止する機能はありません。必ずご自身でブレーキペダルを踏んで停止してください。





基本的な考え方

マツダは、持続可能な社会の実現のために、行政・業界団体・非営利団体などと連携をとりながら、低炭素社会、循環型社会、自然との共生社会づくりの推進に取り組んでいます。自動車メーカーがお客さまや社会から期待されているテーマを「エネルギー／地球温暖化対策」「資源循環の推進」「クリーンエミッション」「環境マネジメント」ととらえ、取り組みを進めています。

エネルギー／地球温暖化対策

マツダは、クルマのライフサイクル全体でのCO₂削減に貢献する取り組みを推進しています。各地域における自動車のパワースOURCEの適性やエネルギー事情、電力の発電構成などを踏まえた、適材適所の対応(マルチソリューション)を可能にするための開発や、再生可能液体燃料の普及に向けた産学官連携・企業間連携、生産／オフィス／物流からのCO₂排出量削減など、さまざまな取り組みを進めています。

資源循環の推進

マツダは、クルマからの排出物、クルマの製造・輸送・廃棄の過程の排出物を削減すると同時に、リサイクルを積極的に進めることで総合的に資源循環を推進しています。解体・リサイクルしやすい車両の開発や、生産拠点における直接埋立廃棄物量削減や、物流における梱包資材削減など、さまざまな取り組みを進めています。

クリーンエミッション

クルマからの排出物およびクルマの生産工程において排出されるさまざまな物質(CO₂以外)の中で、特に環境負荷の高い物質についての削減を推進しています。各国／各地域の大気環境の改善のために低排出ガス車の導入推進や、生産拠点におけるPRTR対象物質やVOC排出量削減など、さまざまな取り組みを進めています。

環境マネジメント

グループ会社およびサプライチェーン全体で、環境に配慮した事業活動を効果的に行うために、ISO14001などの環境マネジメントシステム(EMS: Environmental Management System)の構築を推進するほか、ライフサイクルアセスメント(LCA)、生物多様性保全などの実施拡大など、さまざまな取り組みを進めています。

技術開発における環境への取り組みについては、「特集 技術開発長期ビジョン(P8-11参照)」においても紹介しています。

「ひろしま“Your Green Fuel”プロジェクト」において次世代バイオディーゼル燃料のバリューチェーンを構築

マツダは、自動車用次世代バイオディーゼル燃料の普及拡大に向けた「ひろしま“Your Green Fuel”プロジェクト」に参画しています。このたび、広島地域で支える地産地消モデル実現のため、バイオディーゼル燃料の原料製造・供給から利用に至るまでのバリューチェーンを構築し、同燃料の利用を開始しました。



運用車両イメージ

詳細については以下URL参照
<https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2020/202008/200804a.html>

グループ会社と連携した環境事故の対応訓練

マツダは、マツダエース(株)、マツダロジスティクス(株)と共同で、自動車専用船から作動油が漏えいし、海に流れ出たことを想定して、油除去作業や緊急連絡網の模擬訓練を年1回実施しています。毎年、より実態に近い内容に訓練を見直し、事故発生時に迅速かつ確に対応できる体制の構築を進めています。



海上汚染防止訓練 オイルフェンスを展開している様子

人間尊重

人間尊重



基本的な考え方

マツダは「最大の経営資源は人である」と考え、どこよりも「人」がイキイキしている企業を目指しています。その実現のため、国内・海外のマツダグループ従業員全員で共有する、「Mazda Way」を軸とした人づくりを進めるとともに、グループの人事施策推進体制を構築し、さまざまな取り組みを展開しています。

また、全ての企業活動において、人種、国籍、信条、性別、社会的身分、門地、年齢、精神もしくは身体の障害、性的指向、性自認などによる差別や嫌がらせなど、いかなる人権侵害も容認しません。この決意のもと、人権を尊重する活動の対象を国内・海外のグループ会社およびサプライヤーにも拡大し取り組みを進めています。

従業員の一人ひとりが活躍できる環境づくり

従業員の一人ひとりが自律的に働き、活躍し続けることができる労働環境づくりを進めています。具体的には、「柔軟かつ多様な働き方を促進する制度の導入」「IT技術活用による労働(残業)時間の短縮」「活躍し続けるためのキャリアプランの策定」などを進めています。

2019年11月、在宅勤務制度において十分な利用実績があることが評価され、総務省がテレワーク導入・活用を進めている企業を選定・発表している『テレワーク先駆者百選』に選ばれました。2019年度は首都圏勤務者を対象に『テレワーク・デイズ2019』にも参加するなど、多様な働き方の更なる定着を図っています。

労働安全衛生

従業員の安全と健康のために、人づくり、職場づくり、仕組みづくりを目的とした積極的な活動を進めています。「健康リスクの低減」を重点目標に掲げて全社的な健康づくり活動を推進しています。なお、経済産業省と日本健康会議が共同で進める「健康経営優良法人認定制度」において、マツダは4年連続で「健康経営優良法人」に認定されています。

Mazda Way 7つの考え方

誠実

私たちは、お客様、社会、そして仕事に対して誠実であり続けます。

基本・着実

私たちは、基本に忠実に、地道で着実に仕事をすすめます。

継続的改善

私たちは、知恵と工夫で継続的な改善に取り組みます。

挑戦

私たちは、高い目標を掲げ、その実現に向けて挑戦します。

自分発

私たちは、自分発で考え、行動します。

ともいっ 共育

私たちは、成長と活躍に向けて、自ら学び、自ら教え合います。

ONE MAZDA

私たちは、常にグローバルにOne Mazdaの視点で考え、行動します。

マツダの人事制度・施策(抜粋)

ワークライフバランス

育児休暇/休職 550名(うち男性459名)/241名(うち男性29名)

介護休職 11名(うち男性7名)

ハートフル休暇* 772名(うち男性394名)

*親族の看護/ボランティア/子どもの学校行事/不妊治療を目的として、取得できる休暇制度

障がい者への支援

相談窓口「フィジカルチャレンジサポートデスク」設置

手話通訳士(2名)在籍

高齢者の雇用促進

定年退職後も継続して就労を希望する社員全員を継続雇用する制度(エキスパートファミリー)

健康促進

職業性ストレス診断および組織の総合健康度診断(げんき診断)

徒歩通勤を推進する制度(エコ・ウォーク通勤(手当支給))

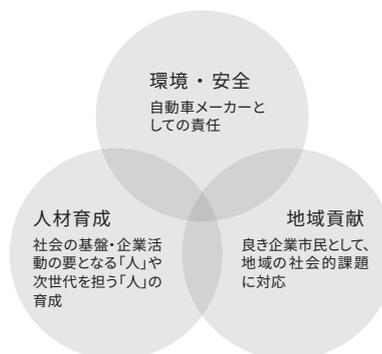




基本的な考え方

グローバルにビジネスを展開しているマツダは、企業活動を通じて、持続可能な社会の実現に寄与するために、それぞれの地域のニーズに即した取り組みを継続的に行い、良き企業市民としての責任を果たしていきます。「環境・安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、地域に根ざした活動を推進していきます。

社会貢献 取り組み基本方針3つの柱



3つの柱に基づいた取り組み

環境・安全

マツダのビジネスは地球温暖化やエネルギー・資源不足、交通事故などの社会的課題に関係／影響があります。これらの課題に対応するため、本業のみならず社会貢献活動においても「環境」「安全」の視点を大切にしています。

人材育成

人は社会や企業活動の要であり、次世代を担うとの考えのもと、社会貢献活動においても「人材育成」の視点を大切にしています。

地域貢献

ビジネスを展開している国・地域において、各地域社会が抱える固有の課題に対応するため「地域貢献」の活動を推進しています。

取り組み詳細については以下URL参照

https://www.mazda.com/globalassets/ja/assets/csr/social/library/download/2020_s_all.pdf

環境

使用済のビルボードの素材をスクールバッグやペンケースにリサイクル(南アフリカ)



安全

交通安全週間などに合わせ、地元の警察署と連携しカーブミラーの清掃・点検を実施(日本)



人材育成

マツダミュージアムを小中学生の社会科見学などに活用いただき子どもたちの学習を支援(日本)



地域貢献

子どもたちを支援する財団と協働し、現地法人の従業員がドライブなどの楽しい時間を提供する「サンタ・プロジェクト」を実施(コロンビア)



TOPICS 令和2年7月豪雨災害に対する支援

マツダは、被災地域ならびに被災者への支援活動・復旧活動に役立てていただくため、自治体や社会福祉協議会などのご要望を踏まえながら災害支援に取り組んでいます。予期せぬ災害時などに、避難した場所で車中泊する際活用できる商品をセットにしたマツダ純正用品の「車中泊セット」*や手袋、マスク、土のう袋などを送付しました。さらに、軽トラック「マツダ スクラム トラック」など3台の車両を無償で提供しました。寄付金に関しては、日本赤十字社および社会福祉法人中央共同募金会を通じて、それぞれ100万円と200万円を寄付しました。引き続き、被災地域の状況などを確認の上、必要な支援を行ってまいります。

* 製品の詳しい情報は以下URL参照

<https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2020/202007/200706b.html>

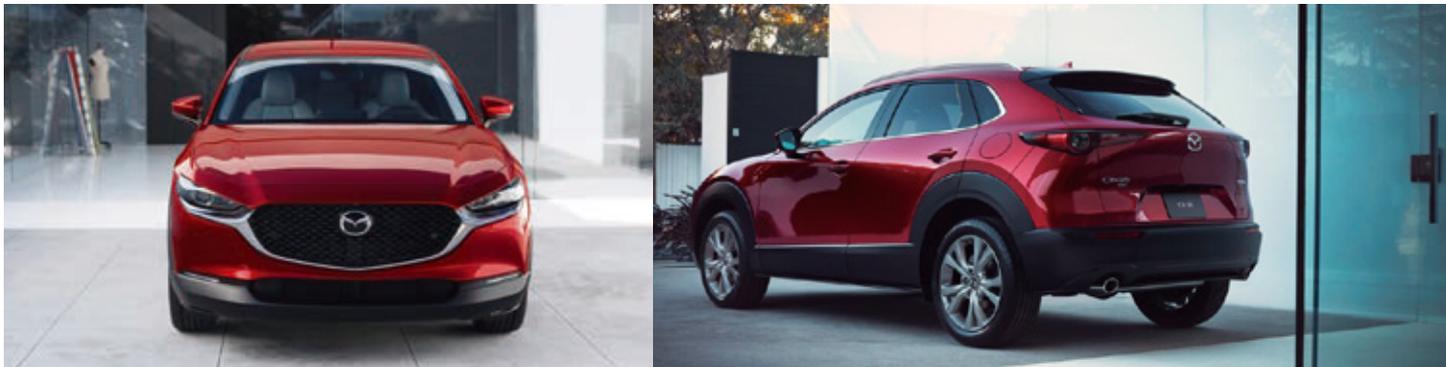


車中泊セット

新世代商品

新世代商品第2弾 クロスオーバーSUV

MAZDA CX-30



グローバルに成長を続けるSUV市場を見据えて、新たな基幹商品としてラインアップに追加しました。「魂動デザイン」を具現化したエレガントなスタイルと、SUVらしい力強さを融合させた全く新しいクロスオーバーSUVです。「人生の幅や世界観を広げるクロスオーバー」をコンセプトに、「日々の生活の中で、大切な人と新しい発見や刺激を感じ、人生を豊かに過ごしていただきたい」との想いを込め開発しました。

新世代商品第3弾 マツダ初の量産EV

MAZDA MX-30



「MAZDA MX-30」はお客さまがクルマとのつながりを深め、クルマと共に自然体で自分らしい時間を過ごしていただくことを目指し、新たなクルマの使い方、創造的な時間と空間を提案します。

デザインは「Human Modern」をコンセプトに、センターコンソール周りは、抜け感を持たせた形状とすることで、開放感のある空間を構成。お客さまが自由な発想で、クルマの多彩な楽しみ方を創造していただけるよう、フリースタイルドア*を採用しました。さらに、EVでも変わることはない「人馬一体による走る歓び」を追求。新たに電動化技術「e-SKYACTIV」を採用し、意のままの操作感と滑らかな車両挙動を高次元に融合させ、ドライバーが自然に運転を楽しむことができる走りを実現しました。

2020年9月から、EVモデルを欧州で発売しました。日本国内では、MX-30のマイルドハイブリッドモデルを10月から発売、EVモデルを2021年1月に発売予定です。

*センターピラーレスのセンターオープン式ドア構造

主要商品ラインアップ

マツダは、「走る喜び」と「優れた環境・安全性能」を両立した魅力ある商品を提供しています。

2019年より、深化した「魂動デザイン」と「SKYACTIV技術」を採用した新世代商品の導入を進めています。

MAZDA CX-3



グローバル販売台数 12万台
販売市場 J N E C O
生産拠点 J O

MAZDA CX-30



グローバル販売台数 7万3千台
販売市場 J N E C O
生産拠点 J N C O

* 中国で生産を2020年4月に、販売を5月に開始しました。

MAZDA CX-4



グローバル販売台数 4万5千台
販売市場 C
生産拠点 C

MAZDA CX-5



グローバル販売台数 41万6千台
販売市場 J N E C O
生産拠点 J E C O

MAZDA CX-8



グローバル販売台数 2万7千台
販売市場 J J C O
生産拠点 J J C O

MAZDA CX-9



グローバル販売台数 6万1千台
販売市場 N E O
生産拠点 J E

MAZDA 2



グローバル販売台数 13万9千台
販売市場 J N E C O
生産拠点 J N O

MAZDA 3



グローバル販売台数 30万9千台
販売市場 J N E C O
生産拠点 J N C O

MAZDA 6



グローバル販売台数 12万台
販売市場 J N E C O
生産拠点 J E C O

MAZDA ROADSTER

(海外市場名: MAZDA MX-5)



グローバル販売台数 2万7千台
販売市場 J N E C O
生産拠点 J

MAZDA BT-50



グローバル販売台数 3万2千台
販売市場 O
生産拠点 O

MAZDA MX-30



2020年秋より欧州から順次グローバルに発売。

販売市場・生産拠点

J 日本 N 北米 E 欧州 C 中国 O その他

* グローバル販売台数は2020年3月期、販売市場・生産拠点は2020年3月31日現在。

* 仕様は市場により異なります。

グローバルネットワーク (2020年3月31日現在)

マツダは、広島県を本拠地として、日本、メキシコ、タイ、中国に主要生産拠点をもち、130以上の国と地域で販売しています。事業統括、研究開発、生産拠点、販売拠点などグローバルにネットワークを構築しています。

日本

(販売店舗数:946)

- 1 マツダ本社
- 2 本社 研究開発部門
- 3 マツダR&Dセンター横浜
- 4 三次自動車試験場
- 5 美祢自動車試験場
- 6 北海道剣淵試験場
- 7 北海道中札内試験場
- 8 本社工場
- 9 防府工場
- 10 三次事業所
- 11 プレス工業株式会社・尾道工場*1*6

アジア

(販売店舗数:856)

- 12 マツダ(中国)企業管理(MCO) / MCO中国技術支援センター
- 13 中国第一汽車*1*2
- 14 長安マツダ汽車
- 15 長安マツダエンジン
- 16 オートアライアンス(タイランド)
- 17 マツダパワートレイン
マニファクチャリング(タイランド)
- 18 タコマツダオートモービル
マニファクチャリングカンパニー*1
- 19 マツダマレーシア
- 20 一汽マツダ汽車販売
- 21 長安マツダ汽車販売
- 22 台湾マツダ汽車
- 23 マツダセールス(タイランド)

大洋州

(販売店舗数:191)

- 24 マツダオーストラリア
- 25 マツダモーターズオプニュージーランド

*1 委託生産先
*2 2020年6月一気乗用車より社名変更
*3 2020年4月より生産
*4 2020年5月より生産
*5 2020年5月生産終了
*6 2020年8月生産終了



14 長安マツダ汽車
所在地：中国 南京市
生産能力:22万台/年
生産車種: CX-30*3、CX-5、CX-8、MAZDA3



16 オートアライアンス(タイランド)
所在地：タイラヨーン県
生産能力:13万5千台/年
生産車種: CX-3、CX-30、MAZDA2、MAZDA3、BT-50



1 マツダ本社
所在地：日本 広島県安芸郡



3 マツダR&Dセンター横浜
所在地：日本 神奈川県横浜市



8 本社工場
所在地：日本 広島県安芸郡
生産能力:56万9千台/年
生産車種: CX-30、CX-5、CX-8、CX-9、ロードスター、MX-30*4、ポンゴ*5、フィアット・クライスラー社向けスポーツカー



9 防府工場
所在地：日本 山口県防府市
生産能力:41万6千台/年
生産車種: CX-3、CX-5、MAZDA2、MAZDA3、MAZDA6

北米

(販売店舗数:778)

- 26 マツダノースアメリカンオペレーションズ
- 27 マツダトヨタマニュファクチャリングUSA*1
- 28 マツダデメヒコビークルオペレーション
- 29 マツダモーターオブアメリカ
- 30 マツダカナダ
- 31 マツダデメヒコセールスアンドコマмерシャルオペレーション



26 マツダノースアメリカン
オペレーションズ
所在地:アメリカ カリフォルニア州



28 マツダデメヒコビークル
オペレーション
所在地 :メキシコグアナフアト州
生産能力:25万台/年
生産車種: CX-30, MAZDA2, MAZDA3、
トヨタ社向け小型車

欧州

(販売店舗数:1,978)

- 32 マツダモーターヨーロッパ/
European R&D Centre
- 33 マツダモーターロジスティクスヨーロッパ
- 34 マツダソラーズマヌファクトウリングレース
- 35 マツダモーターズ(ドイツランド)
- 36 マツダモーターズUK
- 37 マツダモーターロシア

その他主要国に19の販売拠点



32 マツダモーターヨーロッパ
所在地:ドイツ ノルトラインウエストファーレン州

カリブ・中南米 中近東・アフリカ

(販売店舗数:415)

- 38 マツダデコロンビア
- 39 マツダサザンアフリカ



主な事業内容

- 事業統括・研究開発
- 生産拠点
- 販売拠点

*1 2021年稼働予定

2019年度ハイライト

販売国・地域数

130 カ国・地域以上

一次サプライヤー数

1,071 社

グローバル販売台数

141.9 万台 前年度比 -9.1%

市場別販売割合



従業員数

50,479 名^{※2}

海外拠点の現地マネジメント^{※3}率 **74%**

地域別従業員割合(連結)



売上高

3兆4,303 億円 前年度比 -3.8%

営業利益

436 億円 前年度比 -47.0%

国内生産台数

97 万台

海外生産台数

46 万台

生産における売上高当たりCO₂排出量(国内主要4拠点^{※4})

16.3 t-CO₂/億円 1990年度比で56.6%削減

全埋立廃棄物量(国内主要4拠点^{※4})

0 t 2008年度以降継続

育児休職復帰率(単体)

99%

障がい者雇用率(単体)

2.22%

※1 メキシコ含む。

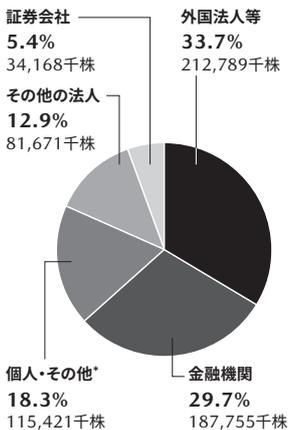
※2 マツダグループ外部への出向者を除き、グループ外部から受け入れた出向者を含む。

※3 役員・本部長級。

※4 本社(広島)／三次事業所／防府工場 西浦地区／防府工場 中間地区(開発など間接領域も含む)。

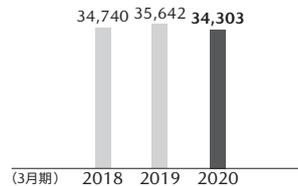
財務情報

株式の所有者別状況
(2020年3月31日現在)



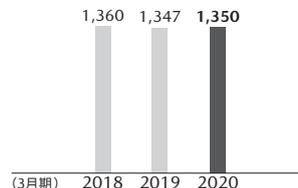
売上高

(億円) ■売上高



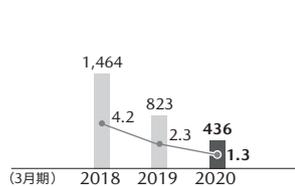
研究開発費

(億円) ■研究開発費



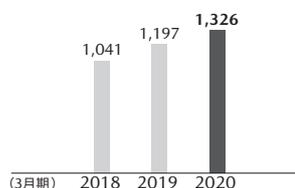
営業利益／営業利益率

(億円／%) ■営業利益 → 営業利益率



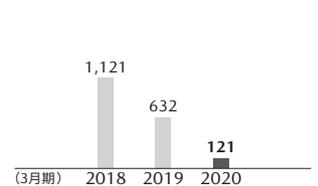
設備投資

(億円) ■設備投資



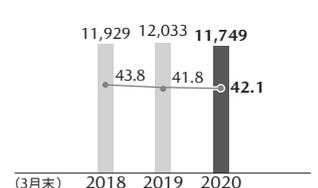
親会社株主に帰属する当期純利益

(億円) ■当期純利益



自己資本／自己資本比率

(億円／%) ■自己資本 → 自己資本比率



会社概要 (2020年3月31日現在)

社名	マツダ株式会社 (英訳名: Mazda Motor Corporation)	研究開発拠点	本社、マツダR&Dセンター横浜、マツダノースアメリカンオペレーションズ(米国)、マツダモーターヨーロッパ(ドイツ)、中国技術支援センター(中国)
会社設立	大正9年(1920年)1月30日	生産拠点	国内 本社工場(本社、宇品)、防府工場(西浦、中関)、三次事業所 海外 中国、タイ、メキシコ、ベトナム*2、マレーシア*2、ロシア*2
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号	販売会社	国内 212社 海外 140社
主な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売など	主要製品	四輪自動車、ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、 自動車用手動/自動変速機
株式	発行可能株式総数 1,200,000,000株 発行済株式総数 631,803,979株 株主数 148,222名		
資本金	2,840億円		
従業員数	連結 合計: 50,479名*1		

*1 マツダグループ外部への出向者を除き、グループ外部から受け入れた出向者を含む
*2 現地組み立てのみ(生産台数は公表対象外)

マツダについて

マツダの由来と意味

社名「マツダ」は、西アジアでの人類文明発祥とともに誕生した神、アフラ・マズダー(Ahura Mazda)に由来します。この叡智・理性・調和の神を、東西文明の源泉のシンボルかつ自動車文明の始原的シンボルとして捉え、また世界平和を希求し自動車産業の光明となることを願って名付けられました。それはまた、自動車事業をはじめた松田重次郎の姓にもちなんでいます。

マツダコーポレートマーク

コミュニケーションの核となる企業シンボルとして1975年に制定しました。その後1997年のブランドシンボル制定に伴い、可読性を生かした「マツダコーポレートマーク」と位置付けています(1975年1月制定)。



マツダブランドシンボル

「自らをたゆまず改革し続けることによって、力強く、留まることなく発展していく」というブランドシンボル制定のマツダの決意を、未来に向けて羽ばたくMAZDAの<M>の形に象徴しています(1997年6月制定)。



ブランドスローガン“Zoom-Zoom(ズーム・ズーム)”

創造性と革新性で、子どものときに感じた動くことへの感動を愛し持ち続ける人々に「心ときめくドライビング体験」を提供したいというマツダの想いを示した言葉です(2002年4月発表)。

その他の情報

公式ウェブサイト

	URL	内容
CSR	https://www.mazda.com/ja/csr/	マツダのCSR取り組み全般 など
株主・投資家情報	https://www.mazda.com/ja/investors/	財務情報やガバナンス情報 など
企業	https://www.mazda.com/ja/about/	マツダグループの概要や拠点情報 など
ブランド	https://www.mazda.com/ja/innovation/	ブランドや技術 など
ニュースルーム	https://newsroom.mazda.com/ja/	ニュースリリースやSNS、動画 など
販売・カスタマーサービス	https://www.mazda.com/en/about/d-list/ ※	商品説明や、購入前後のお客さま向けの情報 など ※ 検索したい国・エリアを選択。



マツダサステナビリティ
レポート2020(詳細版)
<https://www.mazda.com/ja/csr/report/download/>



アニュアルレポート2020
<https://www.mazda.com/ja/investors/library/annual/>



マツダ技報
<https://www.mazda.com/ja/innovation/technology/gihou/>

マツダの歴史 HISTORY OF MAZDA

1920

経営領域

商品領域*

- 1920.1 東洋コルク工業株式会社として創立
- 1921.3 松田重次郎社長就任
- 1927.9 東洋工業株式会社に改称



1930

- 1930.9 広島県安芸郡府中町に新工場建設
- 1932 3輪トラックの輸出開始
- 1936.4 3輪トラックで鹿児島ー東京間をキャラバン宣伝
- 1936.4 新しいシンボルマーク使用開始



1931.10
マツダ初の自動車、
3輪トラック「マツダ号DA型」生産開始

1940

- 1945.8 建物の一部を広島県他、裁判所、報道機関などに貸与
県庁の全機構がマツダに移転(～1946.7)
- 1945.12 1945.8より中止していた3輪トラックの生産再開
- 1949.8 3輪トラックの輸出を再開

1950

- 1951 新しいシンボルマーク使用開始
- 1951.12 松田恒次社長就任
- 1959.7 新しいシンボルマーク使用開始



1950.6
小型4輪トラック
「CA型」発売



1960

- 1961.7 独NSU社、バンケル社とロータリーエンジンに関し
技術提携
- 1963.3 国内自動車生産累計100万台達成
- 1965.5 三次自動車試験場開設
- 1966.11 宇品乗用車専用工場操業開始
- 1967.3 欧州向け本格輸出開始



1960.5
マツダ初の乗用車
「R360クーペ」発売



1962.2
初代「キャロル」発売



1963.10
初代「ファミリア」
発売



1966.5
初代「ボンゴ」発売



1967.5
初のロータリー
エンジン搭載車
「コスモスポーツ」発売
(2003 日本自動車殿堂
歴史遺産車に選定)



1966.8
初代「ルーチェ」発売



1970

- 1970.4 米国向け本格輸出開始
- 1970.11 松田耕平社長就任
- 1975.1 新しいシンボルマーク使用開始
- 1977.12 山崎芳樹社長就任
- 1979.6 国内自動車生産累計1,000万台達成
- 1979.11 フォードと資本提携



1970.5
初代「カペラ」発売



1971.8
初代「タイタン」発売



1971.9
初代「サバンナ」発売



1975.10
初代「コスモ」発売



1978.3
初代「サバンナRX-7」発売



1980

- 1981.12 防府中関工場(トランスミッション) 操業開始
- 1982.9 防府西浦工場(乗用車) 本格操業開始
- 1984.5 マツダ株式会社へ社名変更
- 1984.10 マツダ財団設立
- 1984.11 山本健一社長就任
- 1985.1 米国生産会社(MMUC、現・AAI) 設立(～2012.8)
- 1987.4 国内自動車生産累計2,000万台達成
- 1987.6 技術研究所横浜研究所(現・R&Dセンター横浜) 開設
- 1987.12 古田徳昌社長就任
- 1988.4 マツダ工業技術短期大学を設立
- 1988.5 マツダR&Dセンター・アーバイン(米国) 完成

1980.6
「ファミリア」フルモデルチェンジ
(1980-1981「初代」日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞)



1982.9
「カペラ」フルモデルチェンジ
(1982-1983日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞)



1989.9
初代「ロードスター」発売
(2019 日本自動車殿堂
歴史遺産車に選定)



1990

- 1990.1 北海道剣淵耐寒自動車試験場開設
- 1990.5 マツダ欧州R&D事務所(MRE) 完成
- 1991.12 和田淑弘社長就任
- 1995.4 国内自動車生産累計3,000万台達成
- 1995.11 フォードとタイに生産合弁会社
「オートアライアンス(タイランド)社(AAT)」設立
- 1996.3 マツダ ホームページ開設
- 1996.6 ヘンリー・D・G・ウォレス社長就任
- 1997.6 新しいシンボルマーク使用開始
- 1997.11 ジェームズ・E・ミラー社長就任
- 1999.12 マーク・フィールズ社長就任



1991.6
第59回ルマン24時間レースでマツダ787Bが
日本車史上初の総合優勝



1996.8
初代「デミオ」発売
(1996～1997年次
RJCニューカーオブ
ザイヤー受賞)



1990.1
初代「MPV」発売



1991.12
「RX-7」フルモデルチェンジ
(1991～1992年次
RJCニューカーオブ
ザイヤー受賞)



1999.4
初代「プレマシー」発売



*発売時期は国内を基準に掲載

2000

経営領域	
2000.11	中期経営計画「ミレニアムプラン」発表
2002.1	北海道中札内試験場開設
2002.4	新ブランドスローガン「Zoom-Zoom」展開
2002.6	ルイス・ブース社長兼CEO就任
2003.1	中国の一気乗用車でMazda6(日本名:アテンザ)生産開始
2003.8	井巻久一社長兼CEO就任
2004.11	中期計画「マツダ モメンタム」発表
2005.8	中国技術支援センター開設
2006.5	美祿自動車試験場開設
2007.3	中期計画「マツダ アドバンスメント プラン」発表
2007.3	技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」策定
2007.4	中国の長安フォードマツダエンジン工場(CFME、現・CME)操業開始
2007.7	国内自動車生産累計4,000万台達成
2007.10	中国の長安フォードマツダ南京工場(CFMA、現・CMA)操業開始
2008.11	山内孝社長兼CEO就任

2010

2010.4	「中長期施策の枠組み」発表
2012.2	「構造改革プラン」発表
2012.9	ロシアのソラーズとの合併生産会社「マツダソラーズ(MSMR)」設立
2012.9	マレーシアのベルマツとの合併会社「マツダマレーシア(MMSB)」設立
2013.1	フィアットとオープン2シータースポーツカーの開発・生産に向けた事業契約締結
2013.6	小飼雅道社長兼CEO就任
2014.1	メキシコにおける住友商事との合併生産拠点「マツダデメヒコピークルオペレーション(MMVO)」操業開始
2015.1	タイのトランスミッション工場「マツダパワートレインマニュファクチャリング(タイランド)(MPMT)」操業開始
2015.4	「構造改革ステージ2」発表
2015.4	新コーポレートビジョン制定
2017.8	トヨタと業務資本提携に関する合意書を締結
2017.8	技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030」策定
2018.3	トヨタとの合併会社「マツダトヨタマニュファクチャリングUSA」設立
2018.5	国内生産累計5,000万台達成
2018.6	丸本明社長兼CEO就任
2019.11	中期経営計画発表
2020.1	創立100周年

商品領域*		
2000.7	「ロードスター」が世界で最も多く生産された2人乗り小型オープンスポーツカーとして“ギネス”に認定	
2002.5	初代「アテンザ」発売(2003年次JICカーオブザイヤー受賞)	
2003.10	初代「アクセラ」発売	
2005.8	「ロードスター」フルモデルチェンジ(2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞)	
2006.2	水素自動車(RX-8水素ロータリーエンジン開発車)リース販売	
2006.3	バンコク国際モーターショーに初代「BT-50」を出品	
2006.12	「CX-7」発売	
2006.10	初代「CX-9」生産開始	
2007.7	「デミオ」フルモデルチェンジ(2008年次JICカーオブザイヤー受賞)(2008 ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー受賞)	
2008.7	「ピアンテ」発売	
2009.3	水素自動車(プレマシーハイドロジェンREハイブリッド)のリース販売	
2010.10	「SKYACTIV技術」発表	
2012.2	「CX-5」発売(2012-2013日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞)	
2012.11	「アテンザ」フルモデルチェンジ(2014年次JICカーオブザイヤー受賞)	
2013.6	水素自動車(プレマシーハイドロジェンREレンジエクステンダー-EV)リース車による公道走行	
2013.11	「アクセラ」フルモデルチェンジ	
2014.9	「デミオ」フルモデルチェンジ(2014-2015日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞)	
2015.2	「CX-3」発売	
2015.5	「ロードスター」フルモデルチェンジ(2015-2016日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞)(2016 ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー受賞)(2016 ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー受賞)	
2015.7	「マツダ BT-50」タイで生産開始	
2016.2	「CX-9」フルモデルチェンジ・生産開始	
2016.4	「CX-4」世界初公開	
2016.7	車両運動制御技術「SKYACTIV-VEHICLE DYNAMICS」発表	
2016.12	「CX-5」フルモデルチェンジ	
2017.8	新世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」発表	
2017.12	「CX-8」発売	
2019.5	「MAZDA3」発売(2020 ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー受賞)	
2019.9	「CX-30」発売	
2020.10	「MX-30」発売	

*発売時期は国内を基準に掲載

2020

アンケートご協力のお願い

マツダ会社案内・マツダサステナビリティレポート【ダイジェスト版】2020に関して率直なご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。
https://mag.mazda.jp/form/pub/csr/questionnaire_jp



環境配慮



用紙での配慮

本紙は適切に管理された森林 (FSC®認証林) およびその他の管理された供給源からの原材料で作られた「FSC®認証紙」を使用しています。



インキでの配慮

揮発性有機化合物 (VOC) を含まない「植物油インキ」を使用しています。



印刷での配慮

印刷工程において、水を使用せずに印刷することで、有害廃液を出さない「水無し印刷」を採用しています。

発行：マツダ株式会社 コーポレート業務本部 CSR・環境部

本社所在地：広島県安芸郡府中町新地3-1 〒730-8670

発行年月：2020年11月

マツダコールセンター 0120-386-919

受付時間/月～金 9:00～17:00
土日・祝日 9:00～17:00 (12:00～13:00を除く)

免責事項:本レポートの記述には、マツダ株式会社および、そのグループ会社の過去の事実から、将来の事業環境に関する予測、事業に関する計画などさまざまな情報を記載しています。これらの掲載事項は、記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、将来、諸与件の変化によって異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまには、以上をご了解いただきますようお願い申し上げます。